

コンペティション審査委員記者会見

<ご取材のお願い>

平素よりお世話になっております。第25回東京国際映画祭において、下記の通りコンペティション審査委員の会見を行います。つきましては、ぜひご取材をお願いいたし、ご検討の程、何卒宜しくお願い致します。

◆日時: 10月22日(月)

[マスコミ受付] 16:30~ / 会見時間 17:00~18:00

[場 所] 場所: ムービーカフェ (受付はムービーカフェ内)

●登壇者(予定): ロジャー・コーマン(審査委員長)、リュック・ローグ(プロデューサー)、
滝田洋二郎(映画監督)、エマニエーレ・クリアレーゼ(映画監督/脚本家)
部谷京子(美術監督)

※スチール、ムービーの取材位置は**先着順**となります。

※ラインをご用意しております。

※ご来場の際は、お名刺をご用意ください。

審査委員長ロジャー・コーマン プロフィール

<プロフィール> 1926年デトロイト生まれ。1953年、初めての脚本が映画製作会社アライド・アーティストに買い取られ、映画化。“Highway Dragnet”(54)という、この作品でコーマンは製作補を務めた。その収入で、翌年、『海底からの怪物』(54)を自ら製作。自主映画製作者として彼が初めて手がけたこの作品は、18,000ドルという驚くべき低予算で製作された。その後、映画会社アメリカン・インターナショナル・ピクチャーズ(以下 AIP 社)で低予算の作品を次々と手がけ、それらはすべて大成功を収めた。この一連の大ヒットでコーマンは名声を高め、製作費も増えていった。60年代を通して作られた、ヴィンセント・プライス主演、エドガー・アラン・ポー原作のホラー映画シリーズは、海外でも称賛を受ける。常に流行を生み出すコーマンは、初の“暴走族”映画『ワイルド・エンジェル』(66)を手がける。ピーター・フォンダとナンシー・シナトラ主演のこの作品は、1966年のヴェネツィア国際映画祭で上映され絶賛された。60年代後半にはサイケデリック映画のブームを生み出し、1967年にはジャック・ニコルソン脚本・主演の『白昼の幻想』(67)を手がけた。AIP社でのコーマンの成功は、同社がハリウッドで一大勢力を築く基礎となった。70年代、コーマンは自身の製作・配給会社ニューワールド・ピクチャーズを設立。ニューワールドは、アメリカ最大のインディペンデント映画配給会社へと急速に成長した。ハイテンポな娯楽映画や、カルト映画を配給したほか、世界の名作映画の米国配給を手がける代表格となった。公開作品には、アカデミー賞受賞作を含むイングマール・ベルイマン、フランソワ・トリュフォー、フェデリコ・フェリーニ、黒澤明、ヴェルナー・ヘルツォークらの監督作品もある。1983年、コーマンはニューワールド・ピクチャーズの売却を決め、作品の予算を増やすため、新会社コンコード・ニューホライズンの設立。コンコードが製作した作品には、ミミ・ロジャース、ビリー・ゼイン主演の『処刑監獄<未>』(94)、ポール・W・S・アンダーソン監督の『ショッピング』(93)など、批評家に高く評価された作品もあった。コーマンの自伝「私はいかにハリウッドで100本の映画をつくり、しかも10セントも損をしなかったか」は日本でも早川書房より出版されている。2009年、コーマンは“映画と映画人への多大なる貢献”を認められ、映画芸術科学アカデミーからアカデミー名誉賞を授与された。

●あいさつ

将来を担うであろう優れたフィルムメーカーのささやかな誕生に立ち会うと、明らかな兆候が感じ取れます。そういった若手の映画製作者には、一種の知性と独創性、そして不断の努力が見られます。彼らの成功を見守り、援助するのは爽快なことです。最後に東京を訪れた時、(私の中で)アジアの映画界の全景が明らかになり、また、多くの将来性のある監督の存在に気づかされました。この度、東京国際映画祭の審査委員長として東京を訪れ、新しい才能を見出す興奮を再び体験することのできる幸運に恵まれました。今年は、これまでと同様に、新たなストーリーテラーたちに感銘を受け、刺激されることでしょう。

※上記スケジュールは10月20日現在のものになります。変更の可能性もございますので、プレスデイリースケジュール等にてご確認をお願いいたします。

25th TIFF 東京国際映画祭

The Power of Films, Now!
TOKYO INTERNATIONAL FILM FESTIVAL October 20-28, 2012 www.tiff-jp.net

リュック・ローグ プロデューサー

1962 年生まれ。映画製作・海外セールスを手掛けるインディペンデント社の最高経営責任者。今年のヴェネチア国際映画祭でワールド・プレミア上映された“Boxing Day”を製作。2011 年、『少年は残酷な弓を射る』を製作し批評家に高く評価される。この作品はカンヌ国際映画祭コンペティション部門でワールド・プレミア上映され、ロンドン映画批評家協会最優秀イギリス映画賞を受賞。さらに、英国アカデミー賞で優秀英国作品賞を含む 3 部門にノミネートされた。その他“、Mr. Nice”(10)『スパイダー／少年は蜘蛛にキスをする』(02)“ Kreutzer Sonata”(08)『オセロ』(95)“ Two Deaths”(95)など数多くの作品を製作、製作総指揮した。インディペンデント社のプロデューサーになる以前は、イギリスのウィリアム・モリス・エージェンシーのインディペンデント・フィルム・ヨーロッパの部門長を務めていた。それ以前はヴィヴィッド・プロダクションズの創設者のひとりとして、『ビッグ・タイム』(88)“Let Him Have It”(91)を製作した。映画界との最初の関わりは、子供の頃、父親のニコラス・ローグ監督の獨創性に富んだ映画『美しき冒険旅行』(71)へ出演したことである。

滝田洋二郎 映画監督

1955 年富山県生まれ。86 年、映画『コミック雑誌なんかいらない!』を監督し、ニューヨーク New Directors/ New Films 映画祭、カンヌ国際映画祭で上映、高い評価を得る。その後、『木村家の人びと』(88)『病院へ行こう』(90)『僕らはみんな生きている』(92)『お受験』(99)『秘密』(99)『陰陽師 ～おんみょうじ～』(01)『阿修羅城の瞳』(05)『バッテリー』(06)『釣りキチ三平』(09)などの作品で人気を集める。『壬生義士伝』(02)では日本アカデミー賞最優秀作品賞、優秀監督賞を受賞。また『おくりびと』(08)では、モンリオール世界映画祭グランプリを皮切りに、日本アカデミー賞最優秀作品賞や最優秀監督賞など国内外で 103 もの賞を受賞。09 年には、米アカデミー賞外国語映画賞受賞という快挙を成し遂げ、オスカーを手にした。最新作は日本独自の暦を作り上げた男、安井算哲を描いた沖方丁の小説を岡田准一主演で映画化した『天地明察』(12)。これまでピンク、ロマンポルノを含め 45 本の監督作がある。

エマニエーレ・クリアレーゼ 映画監督/ 脚本家

1965 年生まれ。シチリアにルーツをもつローマの映画監督である。1991 年にアメリカに渡る。ニューヨーク大学で映画演出を学び、95 年に学位を取得する。短編映画を何本か手掛けた後、97 年に“Once We were Strangers”をニューヨークで撮り長編映画監督デビューを飾る。この作品でアメリカのサンダンス映画祭ドラマ・コンペティション部門に招待された初めてのイタリア人監督となり、世界各国でいくつかの賞を獲得した。その後、イタリアに戻り国際的な成功を収める。ヴィンチェンツォ・アマートとヴァレリア・ゴリノを起用し、シチリアのランペドゥーザ島で撮った彼にとっての初めてのイタリア作品『グラツィアの島』(02)でカンヌ国際映画祭批評家週間グランプリを獲得している。2006 年には再び、ヴィンチェンツォ・アマートとシャルロット・ゲンズブールを起用し、『新世界』を監督する。この作品は 20 世紀初頭のアメリカへの移民問題を検証したもので、第 63 回ヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞を獲得した。この作品はアメリカでマーティン・スコセッシの手によって公開され、第 79 回アカデミー賞のイタリアからの出品作品となった。最近の作品『大陸』(10)は第 68 回ヴェネチア国際映画祭で審査員特別賞を受賞し、12 年 6 月にトロント映画批評家協会から FIPRESCI(国際映画批評家協会)賞を授与される。さらに第 84 回アカデミー賞最優秀外国語映画賞部門のイタリア代表にも選ばれた。

部谷京子 美術監督

美術監督。1992年周防正行監督『シコふんじやった。』で美術監督デビュー。日本アカデミー賞優秀美術賞を10回受賞し、『Shall we ダンス?』、『それでもボクはやってない』で最優秀美術賞を受賞。他の主な作品に『RAMPO』、『河童』、『夏の庭』、『陰陽師』、『陰陽師Ⅱ』、『金融腐蝕列島〔呪縛〕』、『突入せよ!「あさま山荘」事件』、『北の零年』、『壬生義士伝』、『マリと子犬の物語』、『チーム・バチスタの栄光』、『容疑者Xの献身』、『ハナミズキ』、『雷桜』、『少女たちの羅針盤』、『ロック〜わんこの島〜』、『天地明察』など。2008年、広島市民表彰(広島市民賞)受彰。